

言者ムハンマドの周の男女は、神、そして他者に する を常に思い起こさせられていました。言者ムハンマドは、このように言って彼らの善行を促していたのが されています。「 であれ、神と最 の日を信じる者は、 人に危害を加えたり、迷惑をかけたりしてはならない。」また彼は教友たちだけでなく、神を信仰する者たち全 が うべきこととして、同胞が えていたり、不幸な状 に甘んじたりしているのを放置してはならないことを げています。 代社会では、老人が てもらって孤独死したり、自分たちは食事に困っていないものの、その 人や知り合いがひもじい思いをしていたりしますが、敬虔な先人たちの模 を忘れなければ、状 は改善するはずです。

教友の一人だったアブ ザッルは、 人たちにその余 分を分け与えることの出来るよう、言者ムハンマドからス プに水を注ぎ足すよう言われています²

。 の教友アブドッラ ブン アムルは、羊を屠 した 、彼の召使いにこう言っています。「 私たちのユダヤ教徒の 人におすそ分けしたか？」信仰者は、たとえそれが金 的に の少ないものであっても、 り物をし合うことが推 されています。 り物の真の とは、それを与える 切心なのです。 り物をする事は、友情や相互扶助を促 します。言者の妻ア イシャが、どの 人に り物を届けるべきか彼に ねたとき、彼はこう答えています。

「あなたの に一番近い人に、だ。」³

まずは最も近い 人への配 に心がけるべきですが、イスラ ムはすべての 人に心配りをするよう めます。それは、共同体全体の必要性や感情を考 に入れるシステムなのです。

人がイスラ ムの教えを真に理解出来れば、共同体の一人の苦しみは、共同体全体の苦しみであることが分かります。 人とは、不和や が降りかかったとき、また何らかの必要性が生じたとき、人が家族の次に ることの出来る存在なのです。 人との い は、人生を悲惨なものにしかねません。同じ近所を共有する者同士が、宗教や人 に わらずお互いを信 し、 りにすることは重要なことなのです。 人同士は、お互いの名誉や富における 害の心配をせずに む必要があります。言者ムハンマドは、良き 人はムスリムの人生における幸福の一部であると述べています。

「信仰者に幸せをもたらすものの中には、 直な 人、 い家、良き がある⁴」

良き 人は安心感と安全を保 します。こうした理由により、神に忠 であることを信じる者にとって、 人にして 切にし、心配りを欠かさないことは重要なのです。言者ムハン

マドは教友たちに し、 人に危害を加えたり、 ませたりしないよう警告しています。

1400年前と同、 今なお真理である [承](#)

として、 の分よりも多く礼 や断食に励み、 喜 を惜まなかったにも わらず、 人にして辛辣な 言を止めなかった女性について、 言者ムハンマドが ねられているものがあります。彼は彼女がそれによって を受けることになる、地 の住人の一人であると述べたのです。彼はその同じ 承の中で、最低限の 行 だけを果たし、 喜 をほんの少ししかしなかったものの、 人に辛辣な言 を吐かず、 ひとりとして中 しなかった の女性について ねられています。言者ムハンマドは彼女のことを天国の住人の一人として述べています。イスラ ムという宗教は、家族と 人、そして共同体全体の について多大なる をしているのです。

イスラ ムは信仰者たちに し、 人に思いやりを持ち、 切にするよう、常に忠告します。しかし、もしイスラ ムの教えに反して をついたり、敬意を示さない 人がいた 合にはどうすれば良いのでしょうか？

ムスリムとは忍耐 く、 容で、 恨をあらわにしません。信仰者とは、神による 大な 酬を期待しつつ、品行方正な振る舞いと 大な心によって、 化した の修 に努める者です。信仰者とは、迷惑行 を可能な限り忍耐 く耐える者です。もしもそうした状 が耐え いものとなったのであれば、そうした迷惑行 をおおやけにすることが最 の手段となります。

言者ムハンマドはある男性に、 い 人との を示唆する行 として、道の真ん中で荷物をまとめるよう助言しています。するとその「い 人」はすぐに 罪し、彼が ってくるよう しました⁶

。自らの 行がおおやけにされることを望む者はいません。それは、宗教によって最も高いモラル水 が求められているムスリムであれば尚更です。イスラ ムは敬意 大さ 容赦の度合いに重きを置き、 人にして示されるそれらの特 こそは、唯一なる真 の神への崇に内在する、 理 高 さの 践なのです。

Footnotes:

1 サヒ フ ブハ リ

2 サヒ フ ムスリム

3 同上

4 真正な 承者 路と共に、アル=ハ キムによって 告されています。

5 サヒ フ ブハ リ

6 サヒ フ ブハ リ、イブン ヒッバ ン、アブ ダ ウ ド

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1775>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。